

花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ国立てくてく

国立第七小学校 平成25年4月26日 NO.8



レンゲソウ ホームページで見るときれいです。

オー君 「あ、レンゲソウ！どこにあったんですか。」

モンタ博士「20号線からインターに行く道の東がわの田んぼにあったんだよ。」

花ちゃん 「たぶん国立でもレンゲソウがあるのは、あそこだけじゃないかしら。」

モンタ博士「学校の近くにこんな見事なレンゲ畑があるなんて、花ちゃんもオー君も幸せだね。。

やっぱり第七小学校はいい所にあるね。」

オー君 「ところでさ、モンタ博士、なんでそんなにいっぱいレンゲソウがあるのかな？

しゅみでうえているのかな？花ちゃん教えてよ！」

花ちゃん 「えっ？そういえば、どうしてかな。私にも分かんないわ。」

オー君 「モンタ博士。なんでそんなにいっぱいレンゲソウがあるの？」

モンタ博士「そうだね。レンゲソウはもともとは、中国の植物でね、田んぼに植えてある

のは、花を楽しむためではないんだよ。ちょっとむずかしいけどね。植物が、

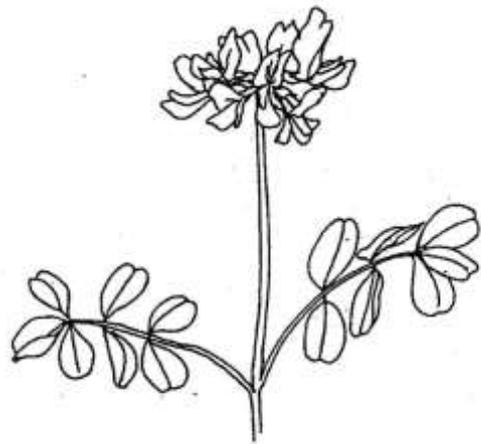
この場合、お米のことだけど、よく育つために、根にある根粒（こんりゅう）

バクテリアを肥料として利用するためなんだよ。」

オー君 「こんりゅうバクテリア?なんだ、
そりゃ?モンタ星の言葉ですか。」

花ちゃん 「私も初めて聞いたわ。なんですか。
そのこんりゅうバクテリアって何?」

モンタ博士 「むずかしく言うと、分かんなくな
ってしまうからね。植物が育つため
には、ちっそ、りんさん、かりと
いってね。大切なものがあって、それと関係しているのさ。」



オー君 「なんですか?その、ちっそ?りんさん?かりって?」

モンタ博士 「ごめん。ごめん。その話はやめよう。かんたんに言うと、よい土にするためさ。」

花ちゃん 「栄養たっぷりのよい土にすることなのね。おいしいお米をつくるためなのね。」

モンタ博士 「そのとおり。でも、レンゲ畑は少なくなったね。モンタ博士が小さいころ、春に
なると、ピンクのじゅうたんになるのさ。子どものころの勉強は忘れちゃったけ
ど、そういうのはよく覚えているよ。心の原風景(げんふうけい)ともいうね。
ところで、このごろレンゲ畑が少なくなっているのはどうしてかな。」

オー君 「うーん。それは・・・?。」

花ちゃん 「きかいを使うときに、つごうが悪いのかな。」

モンタ博士 「ピンポン。そのとおり。根や茎が機械にからんだりして良くないのさ。」

オー君 「モンタ博士。この花は、よく見ると、とってもきれいだよ。白とピンク、赤
もあって、おいら気に入ったぜ。」

根粒バクテリアってなあに?

マメ科植物の根には、こぶのようなつぶつぶがついて
います。この中には、根粒菌という細菌(ふつう
バクテリアといったりします)がいて、宿主のマメ科
植物から栄養をもらって生きているのです。一方、
根粒菌は、植物がつくることのできない物質をつくる
ことができ、その物質をマメ科植物に与えているので
す。この物質というのが、窒素化合物で、土の中では
不足しやすいといわれています。畑の作物にはよく
この窒素肥料が施されます。しかし、マメ科植物の作
物には窒素肥料をやらなくてもよく育つのです。それ
は、根についている根粒菌が窒素化合物を作って、
それを自分で利用するだけでなく、宿主のマメ科植
物にもあげてるからです。窒素固定ともいいます……。

